

学校を人生や社会を見据えた学び合う場へ！

〈「新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けて」～柴山・学びの革新プラン～〉

平成 30 年 11 月 22 日、柴山昌彦文部科学大臣は、Society5.0 の時代に向け、進展する技術を学校教育にも積極的に取り入れることにより、教育の質を一層高めていくために、本プランを取りまとめ、公表した。

柴山・学びの革新プラン（以下：柴山プラン）の概要（全日教連要約・抜粋）

〈 柴山プラン策定の背景 〉

- Society5.0 の時代こそ、学校は、単に知識を伝達する場ではなく、人と人との関わり合いの中で、人間としての強みを伸ばしながら、人生や社会を見据えて学び合う場となる必要がある
- ⇒ 教師は、児童生徒との日常的な直接のふれあいを通じて、児童生徒の特性や状況等を踏まえて学習課題を設定したり学習環境を整えたりする等、学びの質を高める重要な役割を担う
- 学びの質を高め、すべての児童生徒にこれからの時代に求められる資質・能力を育成するためには、新学習指導要領の着実な実施やチームとしての学校運営の推進が不可欠
- ⇒ その中核を担う教師を支え、その質を高めるツールとして先端技術には大きな可能性がある
- 今後の我が国の教育の進展には、学校現場における先端技術の効果的な活用を実現するための技術の進展と、学校現場における先端技術の活用の促進が不可欠



〈 柴山プラン3つの政策の柱と内容 〉

1. **遠隔教育の推進による先進的な教育の実現**
 - 様々な状況に対応した教育の充実（小規模校、中山間地、離島、分校、複式学級、院内学級等）
 - 特別な配慮が必要な児童生徒への支援（病気療養、不登校、外国人、特定分野に特異な才能をもつ児童生徒等）
 - 教育の質向上のための優れた外部人材の積極的活用（グローバル化に向けた外国語、情報教育等）
2. **先端技術の導入による教師の授業支援**
 - 教師支援のツールとしてビッグデータの活用等による児童生徒の学習状況に応じた指導の充実
 - 指導力の分析・共有・、研修への活用等による授業改善等、教師の資質能力の向上
3. **先端技術の活用のための環境整備**
 - 「教育の ICT 化に向けた環境整備 5 か年計画」を踏まえた学校 ICT 環境の整備促進
 - 関係省庁・民間企業・大学等と連携した先端技術導入のための環境の構築

※ 本プランの詳細につきましては、右のQRコードや下のURLから閲覧できます。是非御覧ください。
http://www.mext.go.jp/a_menu/other/1411332.htm



柴山文部科学大臣は、会見の中で、「本プランは、学びの革新に向けた施策の方向性を示すものであり、具体策の検討に向けたキックオフになる。従来からの取組の加速化を図りつつ、これまでにない新たな取組についてもスピード感をもって実施していく」と力強く語った。今後、このプランが教育再生実行会議に提案され議論されるとともに、文部科学省内にもプランを推進するチームが設置され外部有識者の協力も得ながら関係施策の具体化が図られる。

遠隔教育の推進については、規制改革推進会議（内閣府）において「教室に教諭がいる状態に限るという制限を解除すること」等が議論された際、全日教連は「内閣府・規制改革推進会議における遠隔教育に関する問題意識に対する全日教連見解」（平成 29 年 5 月 8 日）の中で、教育の質の低下や教職員の削減につながるとして、断固反対の立場を表明した。また、ICT 環境整備については、地域間格差があることをエビデンスで示し、地財措置された整備費が確実に ICT 環境整備に使用されるように、財務省や総務省、国会議員等へ要望してきたところである。

確かに「教師を支援するツールとして先端技術」を活用することは、スタディ・ログ蓄積による授業改善の実現や成績処理等の教員の負担軽減による子供と向き合う時間の確保につながる。しかし、世界各国からの評価が高い、教師と児童生徒が双方向のコミュニケーションによって創り上げる日本型教育の衰退を招いてはならない。全日教連は、今後の教育再生実行会議等の議論を注視し、本プランが真に教育の質向上に資するものとなるよう要望していく。